

「食」は私たちが生活をしていく基礎となるものですが、今回は、その「食」を支える農業についてのお話です。

山口県は農業が盛んなイメージがありますが、実は、2010年の県民総生産に占める農業の割合は0.6%にすぎません。また、農林水産省の「平成26年作物統計調査」によると、本県の耕地面積に占める田の割合は81%と、全国の54%と比べて高いという特徴があります。

次に、同省が実施する「農林業センサス」の05年と10年の結果をみると、この5年の間に本県の販売農家数は19%減少し、農業就業者数、経営耕地面積もそれぞれ26%、6%減少しています。

その一方で、経営耕地5ヘクタール以上の大規模農家の数は14%増加し、農業を営む法人組織も32%増加しています。さらに、県農林水産部の調べでは、高齢化や兼業化が進んだ地域などにおいて農地や営農を維持する上で有効な集落営農法人の数は、10年3月末の93から14年12月末には212と2倍以上になっています。

農業就業者も、農家も、農地も減少している厳しい環境の中で、本県の農業は生き残りをかけ、経営規模の拡大などに努めていることがうかがえます。

このような農業や農山村の最新の状況を把握し、今後の農林業の政策に役立てるための「農林業センサス」が、5年ぶりに来月1日現在で実施されます。調査対象となる世帯や事業所には調査員が伺いますので、ご回答をよろしくお願いいたします。

